

令和7年度豊明市地域包括ケア連絡協議会 議事録

日 時 令和7年8月7日（木）14時00分～15時00分
場 所 豊明市商工会館 1階イベントホール

【出席】委 員 12名（欠席：3名）

関係機関 7名（欠席：2名）

【傍聴者】なし

1 あいさつ（会長）

- ・地域包括ケアは、2003年からスタートし、すでに22年。
- ・介護予防、重度化予防、生活支援というものが実際にできたことを評価するマイルストーンの第1回が2025年問題の解決、これが今年である。豊明市においてもそれができたかどうか検証し、次に繋げる必要がある。
- ・団塊ジュニア世代が75歳を間近に迎える2040年が2つ目のマイルストーンとなる。それに向かい、新たな方向性を皆さんと共に協議したい。
- ・2024年5月の内閣閣議決定により、介護を含む多くの業務が自治体単位で実施する方向性が示された。水平連携（周辺自治体との協力）と垂直補完（自治体で対応困難な場合に県や国が支援）という新しい形になっていく。
- ・デジタル田園都市国家構想に次ぐものとして、地方創生2.0がスタート。豊明市は、国の方針を先取りし、先進的な自治体活動を展開してきたと感じている。その歩みを緩めることなく進めてほしい。
- ・産官学金労言士との連携を取り、国の流れや動きを見ながら、この会議がいい形になっていくことを期待している。

2 議 題

（1）各委員（団体）からの報告

【豊明市看護連絡協議会】

- ・BCP作成に伴うステーション間、看護師間の連携について取り組んだが、現段階で体制作りにはまだ至っていない。

（課題）

- ・支援内容がより複雑化して多様化する対象について、重層支援センターと看護師がどのような連携を取っていくか、情報を共有しながら今後考えていく必要がある。
- ・いきいき笑顔ネットワークも活用できるような体制を作りたい。

質疑応答等

（会長）能登半島地震で地域の防災がほとんど役に立たなかった。誰がどこの避難所に来るのか分からず、安否確認もできなかつたことが最大の問題の一つ。これを受け、避難先を事前に決定しておくことが重要であり、美浜町は取り組みが始まっている。

【豊明市リハビリテーション連絡協議会】

- ・元気アップ集中リハビリとマイリハにおいて、利用者のセルフマネジメント力をより高められるよう、勉強会などで事例の報告会を行うなど、提供するサービスの質の向上に取り組んだ。この事業の利用実績が伸びていることは一定の成果を感じている。

(課題)

- ・訪問型のマイリハへのサービス提供体制の整備。
- ・豊明市では比較的要支援の中でも、重度な方を短期集中予防サービスの対象としているため、サービス終了後に地域の活動に繋げることが難しい。
⇒生活支援コーディネーターと連携を強化することで、改善に繋がるのではないかと考え、専門職が生活支援体制整備事業や生活支援コーディネーターの役割を理解するために研修会を実施している。今後は、より具体的にどのように連携していくとよいか関係者と協議していく。

【豊明市介護支援専門員連絡協議会】

- ・定例会を年に4回行い、総合事業や重層支援センターなど、市との関わりについての情報共有を行い、一定の成果を得た。

(課題)

- ・成果に対して、実務に反映できていない。
特に重層支援センターとの連携の取り方（相談のタイミングや内容など）が不明瞭。
⇒ケースを経験することが必要だと感じている。また、相談支援専門の方との交流なども行う予定。

【豊明市ソーシャルワーカー連絡協議会】

- ・定例会では、事例をもとにソーシャルワーカーとしての視点、アセスメント力を高めている。昨年度からようやく事例検討等で集まることができるようになったが、季節によっては感染症により参加しにくい状況がある。今年度も同様な形で事例検討を定例会として行う。

【豊明市栄養士連絡協議会】（事務局代読）

- ・多職種同職種会合同研修会や勉強会、講演などを実施。
- ・訪問栄養指導や、子育て世代向け講話などを行っている。

【豊明東郷医療介護サポートセンター「かけはし」】

- ・退院サポート事業は、介護保険の認定申請をしても、退院の時にサービスを使うに至らず、その後状態が悪化し再入院をするケースをなんとかしたいと始まった事業。年々件数が増えている。
- ・304人のうち自宅に帰られた方が159人。そのうちサービスがある状況で帰られた方が95

人、ない方が 64 人。サービスがない方の中で実際にサービスを使わなくて大丈夫な方は問題ない。サービスが必要だが繋がらなかつた方をいかに見つけるかというのがこの事業である。かけはしの介入によって退院前に拾い上げた方が 18 人。実際にはサービスはいらないと言つたが、退院後のモニタリングにより 14 人をサービスに結びつけたということで、一定の役割を果たしているのではないかと評価をしている。

(課題)

- ・電話訪問、姿が見えない中での面談となるため、信頼関係の構築が非常に難しい。
⇒スキルの向上が必要だと考えている。
- ・かけはしの役割として、各専門職の職務団体の活動を支援している。多職種同職種合同研修会は、年に 1 回、各専門職の方が集まり一緒に学ぶ機会を作っている。
災害時における電子連絡帳の活用ということで、5 月 10 日にグループワークを行い、災害が発生したと仮定し、各事業所の被害がどうであったか状況を報告し合つた。災害時の情報共有のためのプラットフォームが豊明市にないため、まずは電子連絡帳を使って対応できないか、取り組みを始めた。

(課題)

- ・電子連絡帳が使いにくい。
- ・通所の事業所、訪問の事業所、施設等、多くの事業所があり、電子連絡帳への参画自体がもともと少ない。
⇒災害時に使えるツールだということを周知の材料として、電子連絡帳の普及啓発に今後取り組んでいく必要がある。

質疑応答等

(委員)

災害時に、市や事業所等の関係者が連携することは、とても大事。

電子連絡帳について、スマホやタブレットで使えるのか。また、LINE はどうか。

→ (かけはし)

災害時どこでアクセスするかということを考えると、それぞれが使える端末を増やしておくことは非常に重要。

各事業所の LINE の情報を持ち合わせておらず、電子連絡帳を利用する形が簡便であるため、今は電子連絡帳の普及啓発を推進している。

→ (委員)

各事業所の被災状況などを市で集約できる仕組みはないと分かった。

→ (会長)

災害発生時の安否確認、要支援者の状況、病院が開いているかどうか、電子連絡帳のオプションがある。特に瀬戸市は、タブレットを使い要支援者の所までケアマネ等が駆け付ける訓練を年 4 回行っている。11 月には警察と消防署とともに、市の防災訓練が行われるので、参考にするとよい。

在宅医療介護において、在宅医療体制の再構築が求められている。第 8 次医療計画で、積極的に在宅医療を担う医療機関、連携を担う拠点を選定しなければいけない。

→ (委員)

災害時、かけはしの車両が給油優先対象車両となるのか。また、どこで給油できるのか。

→ (長寿課)

そのような体制があるかどうかも含めて、後日回答する。

→ (会長)

給油だけでなく、給水などライフラインに関わるところはすべてチェックが必要である。

【豊明市シルバー人材センター】(事務局代読)

- ・女性会員がプラス7名。力を入れて増やしたと聞いている。
- ・高齢者ボランティアポイント制度についても実績が増えている。

質疑応答等

(委員)

あったかサービスと、ちゃっとの競合関係はあるか。

→ (長寿課)

ちゃっとは、介護保険が使えないちょっとした困りごとを助け合う仕組み。業務の住み分けはできている。ちゃっとができないことをあったかサービスで行うなど、お互いに補い合ってやっているだいている。

【豊明市保健事業の共有】

- ・胃がんの死亡率が低下した。2016年に内視鏡検査を導入したことが影響しているのではない
かと評価している。

(課題)

- ・脳梗塞、狭心症、慢性腎臓病の割合が高い。
⇒生活習慣病予防、重症化予防に取り組む。
- ・女性の大腸がんの増加
⇒受診率の向上に取り組む。

質疑応答等

(委員)

死亡原因の急性心筋梗塞が大きく減少しているのはなぜ。

→ (健康推進課)

分析の評価方法が変わったため。

【豊明市消費者安全確保地域協議会】

- ・豊明市の消費生活センターでの相談件数は、令和6年度198件で、前年度より14件減少。
そのうち約40%にあたる76件が65歳以上からの相談。
- ・高齢者の消費者トラブルの特徴は、騙されたことに気づきにくい、被害を誰にも相談しない傾向がある。消費者被害を防ぐポイントは、周りの方のちょっとした気づきや声かけである。
困った時は消費生活センターへ相談するよう伝えてほしい。

質疑応答等

(委員)

市内の高齢者に対して、具体的にどのような業者か、どのようなトラブルか、傾向があつたら知りたい。また、顕在化していない被害の指標などはあるか。

→ (産業支援課)

特定の業者ではなく、今はネット環境が整っているため、スマホから気軽に契約をしてしまつたという相談が全国的に多い。

騙されたことに気付いていない高齢者が多くいると考えられるため、そのような資料は持ち合わせていない。

→ (会長)

アンテナを張ることでトラブルを防ぐことができると思うので、引き続き情報提供を。

(2) 「ふつうに暮らせるしあわせ」を実現するために

～豊明市第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価指標をふまえて～

(資料 2-1、2-2)

【事務局】

・高齢化率は、ここ数年横ばいだが県より若干数値が高い。また、高い年齢層の割合が増加傾向であり、今後続くと思われる。

・令和8年度以降、65歳になる人が増え、65歳未満の人口が減ることから、高齢化率は再び上昇していく。

・令和6年度 男性：健康寿命82.0、平均自立期間80.7

女性：健康寿命85.5、平均自立期間82.8

女性については若干の改善傾向がみられる。

・おたがいさまセンターちやつと：登録者数、利用者数など増加。

令和6年度 累計サポート一数：437人、延べ活動時間：4,655時間

延べ利用者数：5,218人、延べ利用時間：4,255時間

・支え手にとっても社会参加の場になり、生きがいとなっている。

・第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画を2年かけて策定していく。今年度後半に65歳以上の高齢者を対象とした健康実態調査を始めとした評価を予定しているので、その際は意見がほしい。

(3) その他

・特になし

以上